

平成29年度第4回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

■日時 平成29年11月13日（月） 18時～

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

第1部 講演会 （18:00～19:00）

講演 「地方創生の新展開に向けて」

講師 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 成瀬主査

委員) 参考までに計画を策定する際に地方の中小企業について、どの程度の規模を想定したのか尋ねたい。

成瀬主査) 後日確認し、改めて回答させていただく。

委員) 少子化問題においては、給与が200万円以下の方もいるため、そのような状況では、結婚して、子どもを持つことが難しいのではないかと。その対策として、何か把握していることがあれば教えていただきたい。

成瀬主査) まち・ひと・しごと創生本部事務局においては、所得が少ないために子どもを持たないという方々に対し、直接働きかけるような対策は行っていない。事務局としては、地方にしっかりと稼げる仕事を作れば、子育て世代も稼げるようになり、子どもを持てるようになるのではないかとという観点から動いている。子育て世代の収入対策については、内閣府の子育て本部等で対応していると思う。

委員) 子育て対策については石川県の例もあったが、人口が最も集中している東京で子供が生まれなければ、子供が増えないため、そういった対策を検討していただきたい。

成瀬主査) まち・ひと・しごと創生本部事務局としては、地方に人がいないため、地方へ人を持っていくためにはどうしたらよいかという観点から施策を立案しているところである。しかし、東京が子育てしにくいまちであることは、まち・ひと・しごと創生本部事務局でも承知しているため、別の部局とも連携しながら、問題の解決に向けて動いていきたいと思う。

委員) 地方創生のイメージとして、地方の主体性を創出することが重用だと捉えているが、現状は国が設定した目標に対して、各地方の自治体が競い合っているように感じている。このような状況を国では、どのように捉えているか。

成瀬主査) 国からの押し付けの施策ではなく、地方自治体とそこに住む住民が自ら施策を考えていただき、いい意味で競い合ってもらいたいと考えている。

委員) これはお願いになるが、東京に集中してしまった現状について、その原因とこれからの対策・方針について、国からもっと明確に示していただきたい。

成瀬主査) 承知した。

佐藤副市長) 少子化は未婚・晩婚化と経済的な状況の2つが大きな要因となっているため、行政としても、この2つの課題については支援をしていきたい。

また、佐藤委員から指摘のあった地方間の競争に関しては、国はインセンティブ改革に乗り出しており、努力した自治体に対して交付税や交付金を増やすという方向性になりつつあるため、石巻市も全国の自治体に負けないように努力していきたい。

1 会議開催について

委員数19名に対して12名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ 後藤会長

第一部では国の方による貴重な講演を聴くことができました。これまで地方都市は、国の施策に従っていたが、今後は地方自らが考え、試行錯誤を繰り返しながら進めていくことが必要である。民間の委員として行政が進めていく施策に対して、市民目線での意見をどのように提案できるかが重要であるため、それぞれの思いを提案していただきたい。

3 議事

(1) 協議事項

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証結果について

(資料1: 復興政策課長説明)

復興政策課長) 今年度の評価検証の会議は2回に分けて開催したが、会議開催方法等についてもご意見をいただきたい。

委員) K P I の設定について疑問なものが多くあるため、事業が終わった段階で労力を費やすより、計画策定から実行までに時間をかけて審議する必要があるのではないか。また、地域や地元のために力を注いでくれる方がいるので、そのような方を救う大胆な施策が必要だ。

さらに、地方創生を行う中で一部の人たちが急速に事業を推し進め、周囲の人たちがそれについていけないような印象を受ける。計画策定段階でもっと議論を行う場を作ってほしい。

復興政策課長) 1点目については、この会議は実績を評価することを主旨に行っているが、副会長からも様々な計画を練り、事業を提案するような場としてはどうかといった提案があった。この会議の中で事業提案が可能かといった点については、これからの課題として検討していきたいと思う。

2点目の働き手に対する大胆な施策の提案については、他の自治体との差別化も行えるが、財源との関係もあるため、慎重に議論していきたいと思う。

3点目については、5年間という長い会議期間の中で、評価だけではなく、そういったことを行っていただくことを考えているため、案がまとまり次第、会議に提案させていただく。

委員) N O . 3 1 の外国人観光客宿泊者数が徐々に上がっているが、外国人観光客や外国人居住者が病院を受診すると、21割の医療費を負担している。全国的に同一の状況なのかもしれないが、このような方々に対し、行政としてどのような支援を考えているか。

復興政策課長) 旅行者の医療費負担割合については今、初めて認識した。どのような対応が可能か即答できる状況にはないため、他市町村の事例なども参考に対応

が可能であれば検討したい。医療費についての問題とは関係ないが、外国人観光客への対応については、無料W I - F Iなどを設置し、観光情報を拾いやすくする取り組みを行っている。

委員) この問題については次回の会議あるいは中途でもかまわないため、調査して報告してほしい。

委員) 講演会で配布された資料の3ページ目の市町村の人口増減率をみて、石巻市は近隣の東松島市や大崎市よりも人口減少率が高い。移住対策が喫緊の課題であると考えているが、市としてどのような施策を考えているのか。

また、仕事を退職された団塊世代に話を聞いてみると、気候や食べ物がよいのであれば石巻市へ移住しても良いという方がたくさんいる。人口対策を喫緊の課題とするのであれば、こういった団塊世代の取り込みも必要であると思う。来たときに何か特典があれば、インセンティブになるのではないか。

また、石巻市は計画の期間が長すぎるような気がする。見直す期間、機会を真剣に考え、世間の速さに対応する体制に変えていく必要があるのではないか。

子を産んで、育てるということについて、20代～30代の方々について聞くと、1人目以降は無理という状況を良く聞くため、より積極的対策を行ってほしい。

復興政策課長) 1点目の移住の取組についてであるが、現在、本市では首都圏に住む若者を本市で起業家として育てるローカルベンチャー事業を行っている他、空き家を活用して移住者を受け入れることを検討するために調査を行うこととしている。一次産業においては、担い手・後継者が不足するため、市外から若者を呼び、育成する事業を行っている。

2点目については、講演会で配布していただいた資料の23ページにある生涯活躍のまち(CCRC)として、国では進めている。これを進めるためには、医療機関や福祉施設などが必要であり、本市が他市と比較してどのような魅力を持っているのかという点が重要になってくると思われる。

3点目の計画期間の長さについてであるが、昨年度見直しを行った際には、「見直しが早すぎる」、「設定したKPIについては何年か経過を見てから判断すべき」という意見が庁内・議会等からあった。ただし、時代の動きが早く、総合戦略も3年目を迎えていることから、KPIの実績等も見ながら、見直すべきものについては見直すよう検討していきたい。

4点目については、ごもつともであり、今後石巻市としても重点的に対応していかなければならないものであると感じているため、今後、皆様の意見をいただければと思う

委員) 見直しについてはぜひ来年行っていただければと思う。移住について、全国で取り組んでいると思う。人口減少の課題は全国的なものであり、取組は早い方が良い。一次産業が多いと国民年金受給者が多い。60代以降の税収面で厳しいところがあるのではないかと。

委員) 今の木村委員の話に加えてなのであるが、勝ち負けではなく、自分たちが自信を持って石巻が一番と言いたい。

K P I の設定については、私自身も疑問を持っている。地域課題に直接アプローチするような K P I や事業の設定が必要であると感じている。

委員) DMO は評価が高いように感じている。始まったばかりで成果が出ていないため、積極的に成果を上げるよう担当課に依頼をしている。

ローカルベンチャーについても、関わっている人たちがたくさんいるため、ワンストップの窓口で本当に良いのかと考え始めている。

4 その他

高校生・大学生向け意識・希望調査の実施について（説明：館山課長補佐）

委員) 前回からかなり数値が下がっており、下がった理由等も含めて課題であると感じている。このアンケートは資料として委員へ配布するだけに留めるのか、あるいは次の行政施策に反映するために、アンケート結果から見出せるアイデアや意見について募集をするのか。

復興政策課長) 庁内各課には、この結果を踏まえた施策の検討をしていただきたいと考えている。委員の皆様にも、どのような事業が必要か、意見があればいただき、その結果を担当課と調整し、できるだけ実現可能となるように検討していきたいと思う。

先ほどの成瀬主査の講演でもあったように、首都圏への人口集中解消については、地方創生の大きな柱になっており課題となっており、解決が難しいという実情があるようだ。

委員) この件については、後日、委員から意見を徴する方法を考えてほしい。

復興政策課長) こちらから改めて委員へお願いしたいと思う。

委員) よく言われるのは働く場所が無いということであるが、一般論で言えば働く場所は十分にあると思うが、いかがか。

復興政策課長) 石巻市の求人状況については、有効求人倍率については、6 2 か月連続で 1. 0 倍を超えている。今現在、1. 7 2 倍である。事務系では求人が少なく、希望者が多い状況であり、逆に水産加工場などでは求人が多く、希望者がいない状況となっており、雇用のミスマッチが生じている。

委員) 水田まわりの道路（蛇田バイパス付近）の縁石付近に草が生い茂っているところがあるようだ。他県等から観光に来た人から見る景観などはどう映るのか不安である。市内で交通量が多い箇所にマンガ館のキャラクター像を使うと P R にもなってよいのではないか。

高校生段階では、地元就職したいと考えている人が思った以上に多いのだと感じた。大学で一旦外に出て、住みやすさや子育てのしやすさ等を石巻市と比較され、地元に残りたいという人が少なくなる。どのようにすれば残ってもらえるかを今後考えていく必要がある。

このアンケートには、非常に重要な「石巻の未来」がかかっている。ぜひ、効果的に使ってほしい。

復興政策課長) 道路の維持管理については、国道・県道・市道で道路管理者が異なるが、仮に市道であれば連絡をいただければ場所を確認し、すぐに処理できるかは分からないが、対応していきたい。

中心部のマンガキャラクターの設置については街中へ誘導するために設置している。PR手法として、今後検討していきたい。

5 閉会あいさつ

(委員)

第1部は佐藤副市長の紹介で成瀬主査からの講演をいただき、第2部では少し何かが変わるかという予感を感じた。引き続き委員の皆様には対応をお願いしたい。

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員名簿

(平成29年6月1日現在)

No.	氏 名	所 属	備 考
1	安 住 栄 一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿 部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか 創生協議会	副会長 出席
3	阿 部 都	いしのまき農業協同組合	欠席
4	あら 木 裕 美	特定非営利活動法人ベビースマイル 石巻	出席
5	おお 大 浪 茂	河北地区住民代表	出席
6	おの 小野寺 芳 一	七十七銀行石巻支店	出席
7	き 木 村 美保子	いしのまきNPOセンター	出席
8	ご 後 藤 宗 徳	石巻観光協会	会長 出席
9	さい 西 條 拓 也	いしのまき農業協同組合	出席
10	さ 佐 藤 清 子	河南地区住民代表	出席
11	さ 佐 藤 尚 美	北上地区住民代表	出席
12	しな の 野 光一郎	宮城県漁業協同組合	欠席
13	しょう 庄 子 真 岐	石巻専修大学	欠席
14	はた 畑 山 実	日本労働組合総連合会宮城県連合会 石巻地域協議会	出席
15	たか 高 橋 真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	なか がわ 川 尚 仙	石巻商工会議所	欠席
17	なが さわ 澤 貞 代	桃生地区住民代表	欠席
18	は 芳 が 賀 のぶ 幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	欠席
19	み 三 うら 浦 と 基 恵	石巻市地域婦人団体連絡協議会	欠席

(氏名の五十音順、敬称略)